

事前の活動の充実が 目的意識の醸成に つながります

小学校・第5学年 「学級目標をきめよう」

事前の活動

- 担任として学級経営方針を伝える。
私は力を合わせて一生懸命にがんばるクラス、
「笑顔があふれるクラス」にしたいと思います。
みんなも協力してね。
- 担任の学級経営方針を子どもにも伝え、どんな学級を
目指したいのかアンケートや作文によって一人一人の意
見を集約する。
笑顔がいっぱいのクラスにするためには…
4年のおきのように、みんながあなたに言葉で
励ましてほしいと思うな。
- 全員の見解を一括提示し、みんながどんな思いや願いを
もっているのか共有する。

一致団結	けんた	なんでも1番	じゅん
笑顔いっぱい	なつみ	一致団結クラス	あつこ
ほかほかクラス	みな	みんながよし	力をあわせる

けんたさんはどうして「一致団結」が
いいと思ったの？
4年生のとき、みんなの力を合わせてがんばっ
たらすごく気持ちよかったです。だから一致
団結にしたいんだ。

そうなんだ…。一致団結もいいな。

みんなの考えを生かして、「こんなクラスにしたい」という学
級目標を決めるには、どうしたらいいから。

たかし：「一致団結」だけ合わせるほかに、
思いのものを仲間にするのいいよ。
えり：「あたたかい」とかやさしいとかほかほかも
仲間言葉だね。

ようこ：「じゅんくんの阿でも1番」はどうしたらいいかな。
ひろし：「けんただけだから、入れなくていいんじゃない？」

みんなの考えを生かす話し合いで、少数意見をなくしてしまっ
てもいいのかな。

ひろし：「じゅんくん、どうして阿でも1番がいいと思っ
たのか聞いてみようか？」
たかし：「1番になるために、みんなのために、みんながかんがえてることだから
一致団結の仲間になるね。」

みんなの考えを生かしていただくためには、どうしてそれがよい
と思ったのか話してもらおうかな。学級会で、どん
なクラスにしたいかと思ってるの話をしようかな。

ようこ：「だー、阿でも1番がいいですか？」って
聞いたら、「いいよ」とか「いいよ」とか答えてくれる
気がする。」

子どもの気持ち

先生は
そつこう
クラスに
したいんだ。

わたしは
あなたがい
クラスに
したいな。

いろんな
思いや考えが
あるんだね。
一致団結も
いいな。

すてきなクラスに
したいな。
すてきなクラスに
なるように
みんなの考えを
生かして
いい目標を
決めたいな。

教師の働きかけ

担任の学級への思いや
願いを子どもと共有する
ことで、学級の目指す方向
を確認し、「楽しく豊かな
学校生活を送るための学
級目標をつくる」のだとい
う目的意識を育てます。

一人一人の考えのもと
になる思いや願いを引き
出すことで、考えのよさを
認め、一人一人の思いや願
いを生かす雰囲気づくり
をします。
この場面では、言葉の響
きやイメージではなく、そ
の言葉を選んだ思いや願
いを共有することが大切
です。

安易に多数決で決めた
り、少数意見を切り捨てた
りするのはなく、みんな
の思いや願いを生かすな
ら目標を決めるのだとい
う方向を確認します。
計画委員会で話し合いの
方向を確認することで、学
級会でもみんなの思いや
願いを生かし、共有するの
だという意識が高まりま
す。

事前の活動を通して
クラスへの思いを
ぶくらませることが
ポイントです

話し合いの活動

第三回 学級会 五月十一日

議題 このなかで1番いいかな？学級目標をきめよう

提案理由
みんなの意見をきいたら、「一致団結」「ほかほか」
の2つが選ばれた。この2つの意見を中心にみんなから選ん
だうりやうしたのを選び、学級目標をきめよう
と提案しました。

話し合いの目的 このなかで1番いいかな？学級目標をきめよう

1案 一致団結クラス
(力を合わせる・一生懸命)

2案 ほかほかクラス
(なみな、やさしいあたたかい)

1案
みんなの力を合わせ
てがんばるクラスに
したい。

2案
ほかほかクラスに
すれば、笑顔があふ
れるかな？いいクラス
にしたい。

3案
一致団結もほかほか
のいいな

来賓した発言
「一致団結」と「ほかほか」の両方とも大切にして
いくために学級目標は「一致団結ほかほかクラ
スにする。

先生の話し

話し合いの活動

ほくは阿でも1番がいいと思っただけ、一致団結がいいと思っ
た1番になれなくて、一致団結がいいと思っ
た。

ほくも、一致団結クラスに賛成です。みんなので
力をあわせてがんばるクラスにしたいからです。

私はほかほかクラスに賛成です。みんなの仲が
いいクラスにしたいからです。

司会
意見が2つに分かれていますが、友達の考え
を聞いてどう思いますか。

ほかほかクラスもいいけれど、みんなが力を合わせるこ
とも大事だと思っ
た。

ほくも、ほかほかクラスもいいと思っ
た。2つ合
わけて、一致団結ほかほかクラスはどうか。
2つ合わせるという意見も出てきたけど、どうしようか。

司会

話し合い後の実践と活動の振り返り

「一致団結ほかほかクラスにするた
めにはどんな係をつくったらいいかな。

キラキラチームは誰かが失敗したとき
に「ドンマイ！」って声をかけていま
したよ。「一致団結ほかほかクラスらしい
姿ですな。」

学級目標の決定から、3月まで、学級目標をよりよ
ろに学級生活の向上を目指します。定期的に振り返り
の機会をもつことも大切です。
また、学級目標を友達のよさを見つづける視点とする
と目的意識を継続することにもつながります。

事前の活動の充実が
明確な問題意識を生み
自己決定を促します

中学校・第2学年「学級の問題を解決しよう」

事前の活動

- 生徒の生の声をつかむ。(教育相談、生活ノート)
- 計画委員会を開催する。

「最近、授業中の私語が多くて...」
「集中できない...」

「...理科の授業はちゃんとやっていける人多いけれど、国語や数学の時間は私語が多くて、よく先生に怒られています。あまりよくないと驚くのですが...」

次回の学級会で学級の問題について話し合いましょう。最近、私語の多い教科があるって聞いたけど、実際の様子はどうなのかな？

ひろし:「国語の時もどきどきして、授業中ってぼーっとしてるんだよね。」
ゆりこ:「国語の授業で、先生が怒ってぼーっとしてるんだよね。」
ゆりこ:「そうそう、先生はよく怒ってるわ。」

A学生はどうして怒るの？

かずや:「私語がうるさいんだって、先生がびびって注意すれば静かになるのにな。」
ひろし:「ちゃんと注意しない先生が業いんだよ。」
ゆりこ:「うるさいのは大抵男子じゃない。男子が静かにすればいいんだよ。」

静かにするように声をかけてみたの？

ゆりこ:「うるさいなって思っても、注意すると言いつつ返されたりして面倒だから。」
ゆりこ:「私も注意しない関係ないから。」

なるほど、困っているけれど、個人では解決しようとはしてないみたいだね。このままでもいいの？

ゆりこ:「やっぱり、もう少し静かに勉強できた方がいよほね。」
ゆりこ:「じゃあ、注意するしかなないかな。」
ゆりこ:「さっさとさっさとやらせてもらいたいよ。」

その部分で解決するように話し合えればいいよ。みんなに話して考えてもらおうか？

ひろし:「私語をなくすけど、私語している人が悪いとか、私語している人に注意するとかしか出てこないよ、きっと。」
たかし:「私語をなくすことも含めて、授業に集中するために、どうするか、みんなで話し合えばいいよ。」

ゆりこ:「それだね、個人でやることと班とかでやることを考えてもらえばいいかな。」

でも、その部分で今までもうまくいかなかったところだね。どうやって解決策を考えてもらおうの？

ゆりこ:「注意しても聞かなくていい、言い返されたりして困ったことを伝えたいと思ってるんだよね。」

ようこそ、あなたの言うていることは、学級の問題として考えていいときに、とても大切なところだね。みんなは協力できそう？

ゆりこ:「私も一緒に話そうよ。何人かで話せばいいよ。」
たかし:「私も一緒に話そうよ。何人かで話せばいいよ。」
たかし:「それだね、みんなが協力して解決しようとするのが大切だね。」

生徒の気持ち

授業中の私語が気になるなあ。

私語している人が静かにすればいいんじゃないの。

もしかしら、注意できなかったことも問題かも。どうすればいいんだろう...

みんなで取り組めば解決できるかも。みんなから協力してもらうためには...

教師の働き掛け

日頃の情報収集をもとに、「私語が多い」という目に見えやすい状態の根本にある。「みんなの問題を解決しよう、みんなが静かになろう」という雰囲気がないという問題を明らかにしていきます。

学級の課題としていくためには、「課題を課題として感じていない生徒」「自分以外に責任転嫁している生徒」「自分は関係ないと思っている生徒」の意識を変えようとする必要があります。

どのように伝えたら、学級の課題とすることができると考えさせます。場合によっては、話し合いを深めたり、焦点付けたりする必要があるため、どの方向で話し合いを進めるのかというところも話し合います。

事前の活動を通して自分たちの問題として捉えられるようにすることがポイントです

話し合いの活動

第八回 学級会 七月二日

議題 私語をなくして集中力アップ大作戦

提案理由
最近、授業中の私語が多くなっています。授業に集中できなくなると、授業の進め方も遅くなります。また、先生の話を聞かないで授業中を過ごすのは、自分の学力を落とすことにつながります。授業中に集中して学習するための対策を考えたいと思います。

話し合いの目的
私語をなくして集中して学習するための対策を考える

個人の取組
自分の学習のペースを上げる

係活動などの取組
授業中に静かに学習する

(個人の取組)
・私語をしている人がいたら、とまどいの表情をかける
・分前になったら近くの人の手を叩いて知らせる

(係活動などの取組)
・学級委員や係が呼びかける
・授業の進行に協力する
・班の目標を決めて班の中で声を掛け合う
・よい班を表彰する

決定した内容
近くの人の手を叩くこと、分前音階や集中して学習できるようにする。班の目標を決めて班の中で声を掛け合うこと、みんなでいい声を出す。

先生の話

話し合いの活動

半分からい人はちゃんとやってるんだから、私語している人がやめればいいんじゃないの？

男子が静かにすればいいと思います。

私も初めはそう思ったけど、私語だけじゃなく、勉強に集中するという点では、みんなが取り組む価値があるのではないかと考えています。個人として、学級として、どうしていいと思いますか？

私語している人がいると、集中できないから、近くの人や班で注意し合えばいいんじゃないかな。

言いくいんだけれど、今までも注意して言い返されたりしたことがあって、だんだん注意しなくなっちゃって...

そうそう、言い返されると注意できなくなっちゃうよ。

だったら、学級委員が注意すればいいんじゃないの？

学級委員だけが注意しても変わらないかな。

みんなで、声を掛け合って、学級の雰囲気を良くしていくことが大切だと思うよ。

話し合い後の実践と活動の振り返り

5班は、2分前音階、私語ゼロ、ぼーっとしなかった。班の中でいい声を掛け合っているものね。

みんなでも声を掛け合ったら、私語が少なくなってきた。振り返りでもいいね。

実践の場では、十分に満足だと判断できる状況や、よい取組、よい考えを学級全体で紹介し、賞賛します。活動の様子や努力を認められることで、生徒は自分の判断に自信をもって、主体的に行動することができるようになります。また、定期的に活動を振り返り、自己評価、相互評価を指導の過程に効果的に活用することができそうです。

学校行事

目指す姿の設定と 振り返りの継続が 自己有用感を育みます

中学校・第3学年「体育祭を成功させよう」

事前の活動

教師の動き掛け

□ 体育祭で「目指す姿」の設定への意識を高める。

みんなにとって最後の体育祭ですね。どんな体育祭にしたい？

タカシ:「去年できなかった競技、応援、バネの三冠を取りたい!!」
ヨウコ:「去年すごく悔しかったから、絶対に三冠取りたい!!」
みんな、三冠取りたいよね。でも、三冠って「目標」でしょ? 最高学年として参加する体育祭で、みんなは何を一番大事にしたいの?

タカシ:「最高学年だから、自分たちが後輩をしつかりリードしたいです。」
トオル:「目標とかはいいけど、チームがまとまって、みんながやっつた!!」と思える体育祭にしたいです。」
ユキエ:「自分たちももちろんなんだけど、下級生がこのチームでよかった!!」って思える体育祭にしたいです。去年、三冠取れなかったけど、自分がそう思ったから。」

すごく大事なことが見えてきたね、一人一人の思いや大事にしたいことを出し合うと、「目指す姿」が見えてきそうね。

□ 事前活動での問題点の克服に向け、「目指す姿」を観点に話し合う。

これまでの活動で、うまくいっていないところがあるみたいね。

タカシ:「もつと2年生に厳しく言うって、ダメだったらやり直したとかさせないで、完全にこっちがなめられてしまうと思うんですよ。」
ヨウコ:「応援だけじゃなく、バネでもこらえていこうって指示しても、だからやってくるから、全然強くないじゃないですか。」
ヨウコ:「それってちゃんとやっつてよ!!」って言うたら、「僕らだって一生懸命やっつてる!!」って言い返してくるんですよ!!」

なるほど…。それで、みんなはどうしたいの?

タカシ:「もつと2年生に厳しく言うって、ダメだったらやり直したとかさせないで、完全にこっちがなめられてしまうと思うんですよ。」
ヨウコ:「それってちゃんとやっつてよ!!」って言うたら、「僕らだって一生懸命やっつてる!!」って言い返してくるんですよ!!」

2年生はタカシと違って、やる気を出さないと、自分たちが後輩をしつかりリードしたいです。」
ヨウコ:「去年すごく悔しかったから、絶対に三冠取りたい!!」
みんな、三冠取りたいよね。でも、三冠って「目標」でしょ? 最高学年として参加する体育祭で、みんなは何を一番大事にしたいの?

タカシ:「最高学年だから、自分たちが後輩をしつかりリードしたいです。」
トオル:「目標とかはいいけど、チームがまとまって、みんながやっつた!!」と思える体育祭にしたいです。」
ユキエ:「自分たちももちろんなんだけど、下級生がこのチームでよかった!!」って思える体育祭にしたいです。去年、三冠取れなかったけど、自分がそう思ったから。」

すごく大事なことが見えてきたね、一人一人の思いや大事にしたいことを出し合うと、「目指す姿」が見えてきそうね。

目的意識

生徒一人一人の思いを十分に表出させながら、自分たちの「目指す姿」を設定させることが、目的意識の醸成につながります。

その際、課題達成機能である「目標」と集団維持機能である「目的(目指す姿)」を区別します。どちらも大切にしながらも、「目指す姿」の設定の大切さへの気づきを促します。

目的意識

問題が発生したときに、自分たちの思いだけが先行するのではなく、**集団全体の目指す方向性を確認しながら**解決に当たります。

「目指す姿」に立ち戻ったり、立場を変えて考えさせたりすることで、下級生の思いに目を向け、チームの一人一人を大切にしながら、全体をまとめていくこととする意識を高めます。

事後の活動

教師の動き掛け

□ 体育祭の振り返りを行う。

今年最高学年として一人一人が全校のリーダーとして本当によく頑張りましたね。

ところで、目指す姿に届くことはできましたか? 自分で点数をつけて評価すると、何点ですか?

トオル:「90点くらいです。理由は、応援合戦の時にみんなで声を出して回帰して頑張ったからです。振り返りをリードできなかったからです。」
ヨウコ:「95点です。後輩たちも協力してくれて、競技の応援にもあんなに盛り上がりました。リレーのバトン渡しが失敗した場面もあったんですが、「ドンマイ!!」と声をかけて動まってくれて、用具の出し入れで困っているときに、自分から手伝ってくれたりした仲間がいたからです。減点の5点は、事前活動で、下級生の気持ちを考えずに文句を言うてしまったことです!!」

みんなが後輩に送ったメッセージへの感謝、お礼のメッセージが後輩たちから届いています。よく聞かれていますね。

後輩(1年):「中学校の体育祭は、小学校とは比べものにならないくらい迫力があって感動しました。初めてで、不安だったのですが、競技や応援の時に、先輩がバネをよこすように優しく声を掛けてくれたので最後まで頑張ることができました。」
後輩(2年):「開閉の時にあきらめかけていた私たちに、先輩が最後まであきらめず頑張っていました。応援はできませんでしたけど、みんなの心が一つになっている感じがしてとてもうれしかったです。来年こそ、先輩方の分まで頑張りたいです。」
後輩(2年):「事前活動で自分たちがだげだげにやったときに、…」

後輩たちからのメッセージを聞いて、みんなはどんなことを感じましたか?

タカシ:「途中で、うまく後輩をまとめたかったのに、感謝の言葉がたくさんあって、ちよと泣きそうでした。自分たちが頑張った!!」って思っていて、後輩がそう思ってくれてうれいんです。」
ヨウコ:「自分たちは、後輩だけでなくクラスみんなから助けてもらったので、みんなにも感謝したいです。最初は全然自分が出なかったけど、アドバイスが励みになったので、やっつきました。このクラスで自分たちが本当によかった。」

「目指す姿」の達成に向けて、リーダーもフォローも頑張ったね。この時、みんなに届いてもらった仲間が頑張った事実をまとめてもら、これだけたくさんのお言葉が来たんです!! (絶賛)

体育祭を通してみんなはすこく成長しましたね。本当にすごい!!

事後で生徒を育てるポイント!

生徒の成長した姿が見られたときに、
機を逃さず賞賛の言葉掛けをします。

タカシさん。
委員会活動で1・2年生の
面問をよく見てくれてるからね。
体育祭の活動が起きて
いるのかな!

ヨウコさん。
最近、授業中の発言
すごく頑張っているからね。
体育祭での積極的な姿が、
授業にも表れているわ。

体育祭 本番

スローガン

「絆・本気・アグレッシブ」

個性・能力

協同性

教師の動き掛け

自己決定

「今年の体育祭はよかった!!」という漠然とした感想を述べ合うのではなく、**具体的な事実を語らせる**ことが大切です。**スケールアップエクササイズ**という質問技法(今は何点かねと尋ねる)を用いて「自己評価」させるのは、その理由を自分なりに意味付けて答えさせる上で有効です。

協同性

目的意識

3年生が中心となり全校をリードして企画、運営し、一致団結して体育祭ができたということへの自信と誇りをもたせたり、背景に後輩たちの惜しみない協力と支えがあったということへの気づきを促したりするために、「**相互評価**」(双方向のコミュニケーション活動)を組織し、その内容を明示しながら共有を図ることが大切です。

協同性

目的意識

生徒一人一人の頑張りを十分に賞賛します。また、「目指す姿」に向けた日々の努力を、**具体的な事実に基づいて生徒同士が互いに認め合う活動**を組織することが、自己有用感を育みます。また、振り返りのコメント等をサポートフォロワーの手法を用いて継続的に蓄積させ、自分の成長が自覚できるようにすることも自己有用感を育むのに有効です。

生徒一人一人、そして集団としての成長を十分に評価し実感させることが、活動に対する価値付けと、次の活動への意欲につながります。